

現代的要素と古典的要素の共存した建築 現代のストレス社会にこそ「坐禅」 都内で唯一外国人が坐禅を組める寺院

耕雲寺

祖師谷大蔵駅の南側、祖師谷通りを10分程歩いた閑静な住宅街に佇む寺院が、曹洞禅宗 成城山 耕雲寺（世田谷区砧、芦辺謙一住職、03・3416・1735、<https://kouunji.or.jp/>）だ。

約250年前の安永5年（1776年）、非業の死を遂げた旗本の頭領水野十郎左衛門（水野成之・徳川家康の母方の来孫にあたる人物）の菩提を弔うために、愛妾が出家し「釣月」という法名を頂き、この耕雲寺（当時の名称は耕雲軒）を開創した。戦前は新宿角筈に構えていた草庵が昭和20年に戦禍を受け、本堂伽藍を一切消失し、昭和27年に世田谷砧の地に移転した。

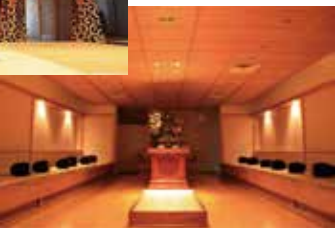
曹洞宗は、宗祖である「道元禅師」がただひたすら坐禅に打ち込むことが最高の修行であると教え、「坐禅」に徹することを特徴とする。目的を持ち「坐禅」を組むのではなく、「坐禅」を組むことを目的とするが、現代の日本において「坐禅」は多種多様化している。

人は迷うと相談したり、ストレス解消の行動をとったりする。素晴らしい答えを持った人に当たるかもしれないが、同じ思考回路の人はないから、参考にはなっても最後に決めるのは自分自身だ。絶対正しい選択肢は少ない。信念や貫く覚悟が欲しい場合、「坐禅」を組むのもひとつの手ではなからうか。この騒然たる世の中、静かに自らを振り返れる機会など強制的につくるしかない。よし、もう一度坐ってみよう。次は違うものが見えるかもしれない。

同寺は本格的な坐禅堂をもつ数少ない寺院のひとつであり、また、都内で外国人を受入れている唯一の寺院でもある。毎週土曜日開催（1人400円）の坐禅会へ、ぜひお運びいただきたい。



本堂



坐禅堂